

# 「食の安全」に関する調査

## (調査結果の概要)

2007年9月20日  
社団法人 中央調査社  
CENTRAL RESEARCH SERVICES, INC.  
東京都中央区銀座6-16-12  
電話03-3549-3121

世論調査、市場調査の専門機関である社団法人 中央調査社（会長 若林 清造）は、「食の安全」に関する全国意識調査を実施しました。調査は、8月3日から12日にかけて、無作為に選んだ全国の20歳以上の男女個人を対象に個別面接聴取法で行い、1,286人から回答を得ました。主な調査結果は以下のとおりです。

食品の安全性への不安感 - 4人に3人（76%）が不安を感じている -

食品の安全性に不安を感じること

- 「生産地・原産地（国産か輸入品かなど）に関すること」がトップ -

食品購入時の生産地表示への意識 - 8割近くの人が『気にする』 -

食品の生産地表示への信頼感 - 「まあ信頼している」が断然多い -

輸入食品への不安感 - 9割弱の人が不安感を抱いている -

生産地や生産国を意識して購入する食品 - 「肉類」「野菜」「魚介類」生鮮食料品が上位 -

「トレーサビリティ」の認知度 - 「聞いたことがない」人が大半を占める -

「トレーサビリティ」の必要性 - 7割以上が必要性を感じる -

食品の安全性の保証についての信頼度

- 「農家」は8割以上が『信頼できる』。一方、「輸入業者」「外食産業」には大半の人が不信 -

食品の安全性確保のために期待する主体 - 「政府や役所」「食品メーカー」に期待感 -

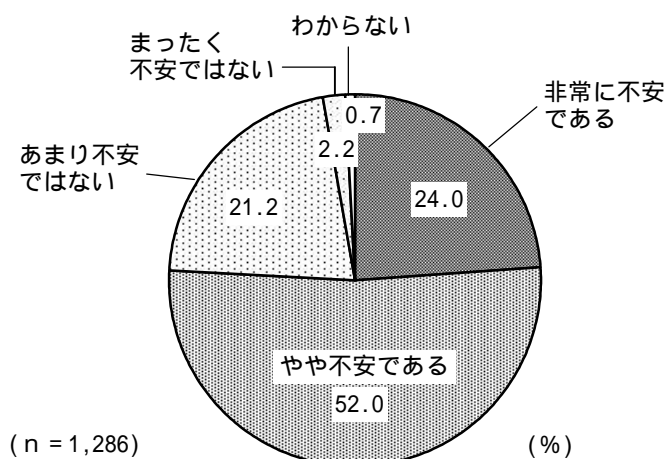
（次頁以降に詳細）

## 1. 食品の安全性への不安感

- 4人に3人(76%)が不安感を抱く -

日頃、食品の安全性について不安を感じているかきいたところ、「非常に不安である」が24.0%、「やや不安である」が52.0%で、4人に3人(76.0%)の人が不安を感じている。性別にみると、男性が66.2%であるのに対し女性が84.3%で、男性に比べ女性の方が食品の安全性に敏感であるといえる。

(図 1-1 食品の安全性への不安感)



(図 1-2 食品の安全性への不安感

- 性別・年代別)

	不安である (計)	不安ではない (計)
総 数	76.0	23.3
【性別】		
男 性	66.2	32.9
女 性	84.3	15.1
【年代別】		
20代	65.4	33.3
30代	77.0	22.2
40代	84.1	15.9
50代	79.8	20.2
60歳以上	73.3	25.5

(注)「不安である(計)」=「非常に不安である」「やや不安である」の合計

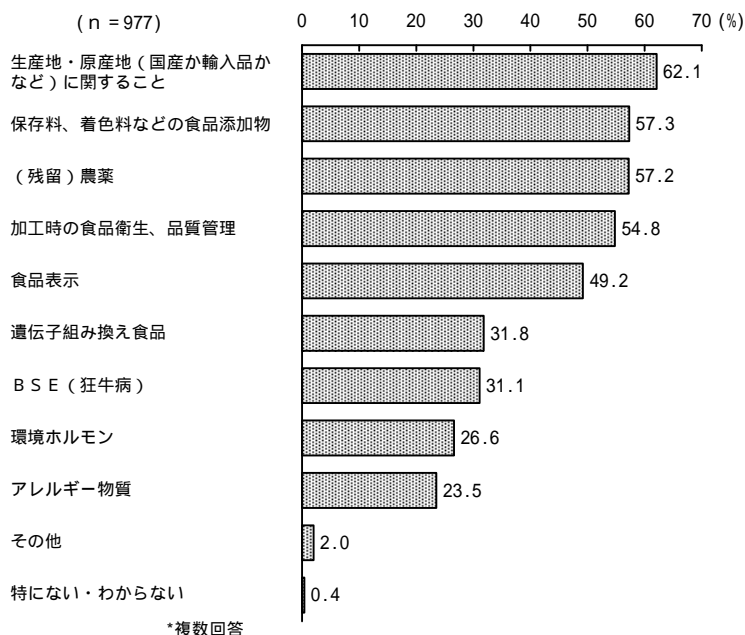
「不安ではない(計)」=「あまり不安ではない」「まったく不安ではない」の合計

## 2. 食品の安全性に不安を感じること

- 「生産地・原産地(国産か輸入品かなど)に関すること」がトップ -

不安を感じる点として、最も多かったのは「生産地・原産地(国産か輸入品かなど)に関すること」62.1%で、次いで「保存料、着色料などの食品添加物」57.3%、「(残留)農薬」57.2%、「加工時の食品衛生、品質管理」54.8%が上位を占める。以下、「食品表示」49.2%、「遺伝子組み換え食品」31.8%と「BSE(狂牛病)」31.1%が3割などと続く。

(図 2 食品の安全性に不安を感じること)

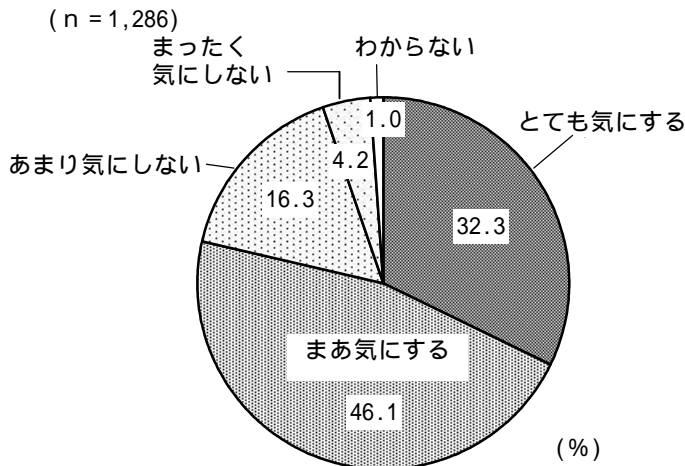


### 3. 食品購入時の生産地表示への意識

- 8割近くの人が『気にする』 -

食品を購入するとき、食品に書かれている生産地の表示をどの程度意識するか聞いたところ、「とても気にする」32.3%と答えた人が3割で、「まあ気にする」46.1%と合わせると『気にする(計)』は8割近くにのぼる。ただし、性別にみると、女性が88.2%であるのに対し男性は67.1%であり、男女に大きな差がみられる。

(図3-1 生産地表示への意識)



(図3-2 生産地表示への意識

- 性別・年代別)

	気にする (計)	気にしない (計)
総数	78.5	20.5
[性別]		
男性	67.1	31.8
女性	88.2	11.0
[年代別]		
20代	70.4	28.3
30代	80.6	19.4
40代	85.6	14.4
50代	79.4	19.8
60歳以上	76.3	21.5

(注)「気にする(計)」=「とても気にする」「まあ気にする」の合計

「気にしない(計)」=「あまり気にしない」「まったく気にしない」の合計

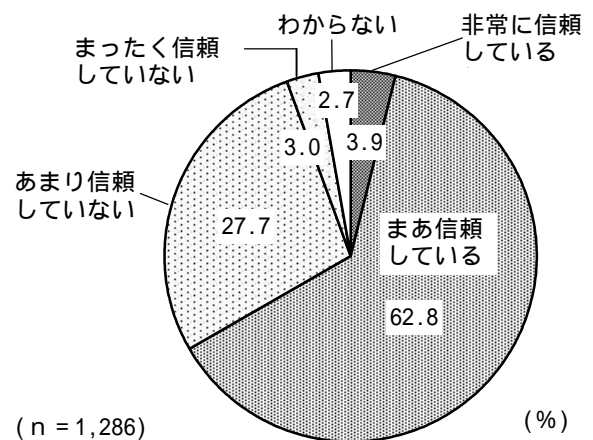
### 4. 食品の生産地表示への信頼感

- 「まあ信頼している」が断然多い -

食品の生産地の表示をどの程度信頼しているか聞いたところ、「非常に信頼している」は3.9%と低いものの、「まあ信頼している」は62.8%で断然多かった。

一方、「あまり信頼していない」が27.7%で、「まったく信頼していない」3.0%と合わせると3割の人が『信頼していない』という結果だった。

(図4 生産地表示への信頼感)



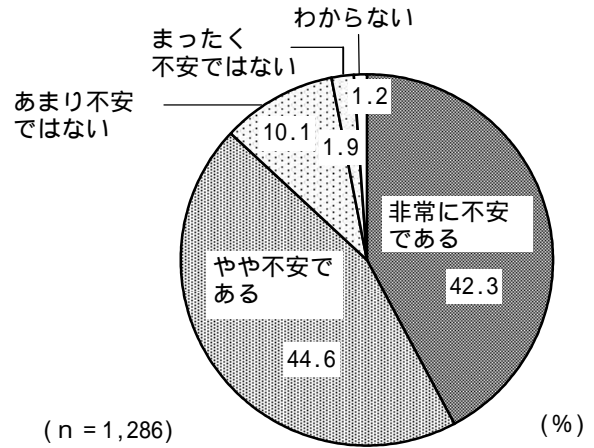
5. 輸入食品への不安感

- 9割弱の人が不安感を抱いている -

輸入食品について不安を感じるかきいたところ、「非常に不安である」が 42.3%、「やや不安である」が 44.6%と『不安を感じる』人が9割弱を占め、輸入食品への不安が強いことがわかる。

一方、「あまり不安ではない」は 10.1%、「まったく不安ではない」はわずか 1.9%で、『不安ではない』と思っている人は1割程度であった。

(図5 輸入食品への不安感)

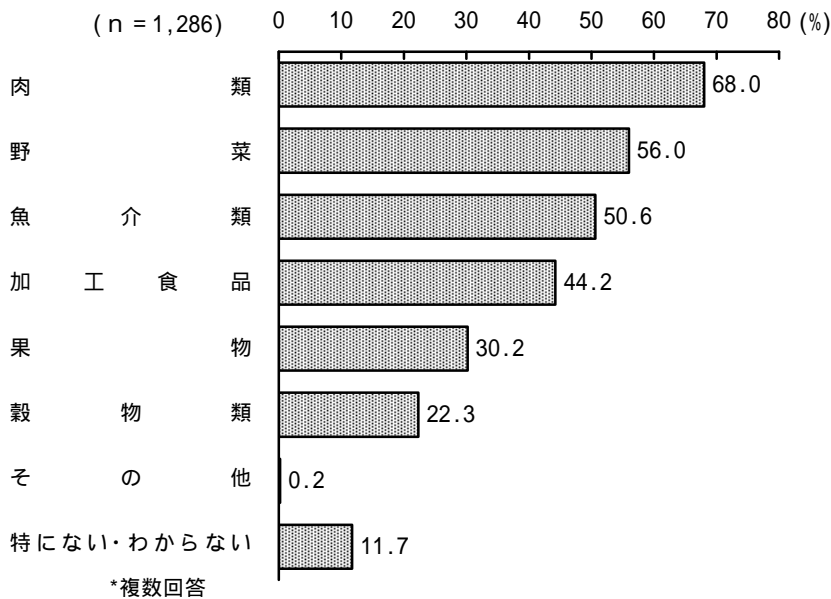


6. 生産地や生産国を意識して購入する食品

- 「肉類」「野菜」「魚介類」生鮮食料品が上位 -

生産地や生産国を意識して購入する食品としては、「肉類」68.0%が最も多く、BSE問題の影響をうかがわせる。その他、5割以上の回答があったのは、「野菜」56.0%、「魚介類」50.6%で生鮮食料品が上位を占める。

(図6 生産地や生産国を意識して購入する食品)

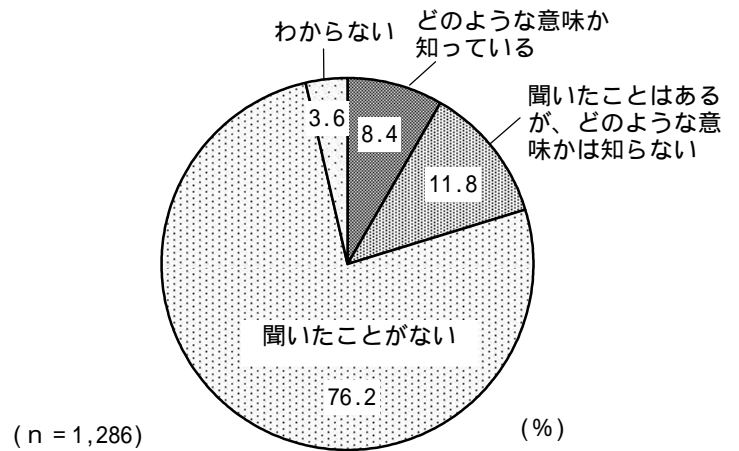


## 7. 「トレーサビリティ」の認知度

- 「聞いたことがない」人が大半を占める -

「トレーサビリティ」という言葉を知っているかきいたところ、「聞いたことがない」と答えた人が 76.2%と大半を占める。「どのような意味か知っている」と答えた人は 8.4%、「聞いたことはあるが、どのような意味かは知らない」と答えた人も 11.8%にとどまり、「トレーサビリティ」という言葉は、まだ一般にはあまり知られていないことがわかった。

(図7 「トレーサビリティ」認知度)

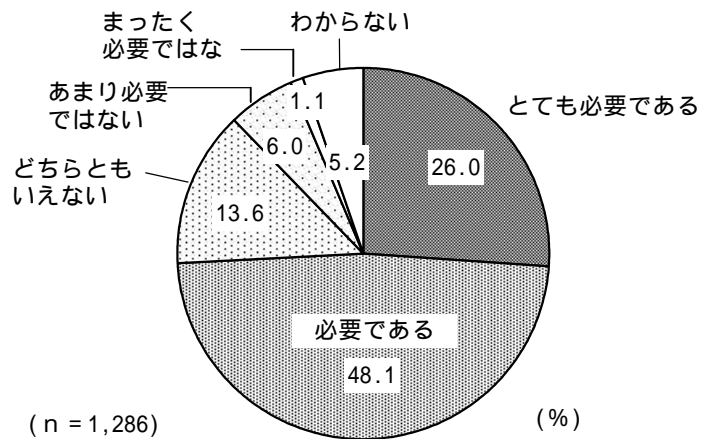


## 8. 「トレーサビリティ」の必要性

- 7割以上が必要性を感じる -

「トレーサビリティ」の言葉の意味を示したうえでその必要性をきいたところ、「必要である」と答えた人は半数近くのにほり(48.1%)、「とても必要である」26.0%と合わせると、7割以上が必要性を感じるという結果となった。

(図8 「トレーサビリティ」認知度)

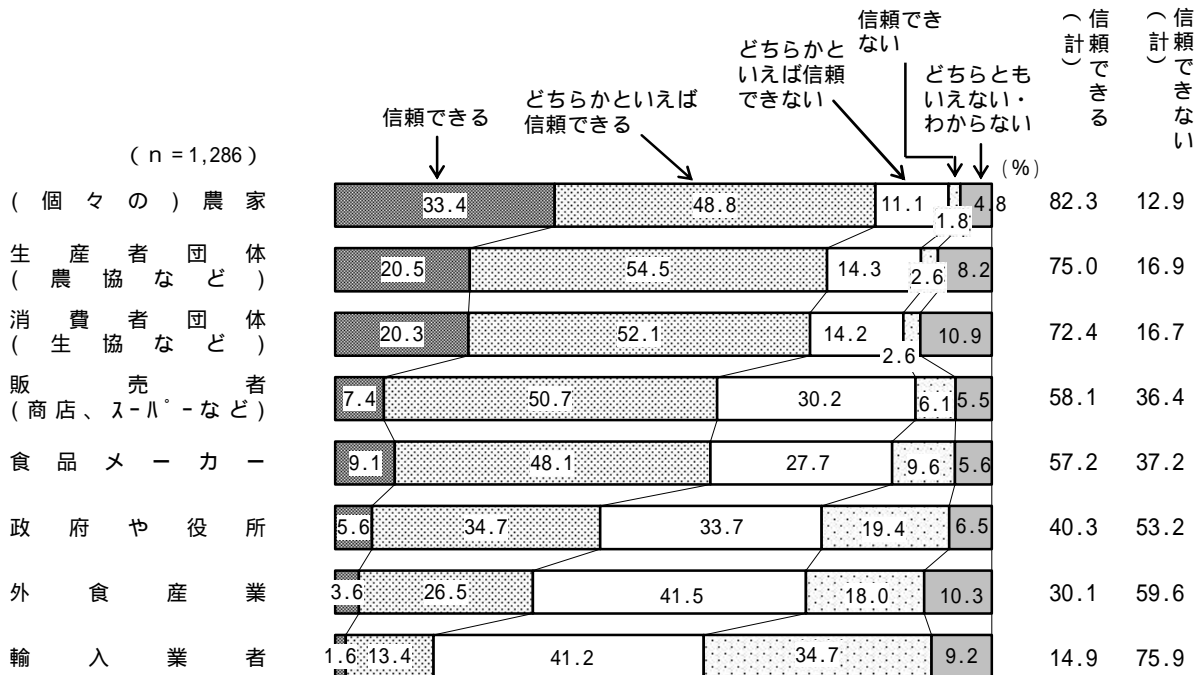


9. 食品の安全性の保証についての信頼度

- 「農家」は8割以上が『信頼できる』。一方、「輸入業者」「外食産業」には大半の人が不信-

食品の安全性の保証について、組織や人がどの程度信頼できると思うかをたずねた。「信頼できる」と「どちらかといえば信頼できる」を合わせた信頼感は、「(個々の)農家」が8割を超え最も高い。次いで、「生産者団体(農協など)」75.0%、「消費者団体(生協など)」72.4%が7割以上であるが、「販売者(商店、スーパーなど)」58.1%、「食品メーカー」57.2%は5割台に下がる。「どちらかといえば信頼できない」と「信頼できない」を合わせた『信頼できない(計)』が過半数を占めたのは、「政府や役所」53.2%、「外食産業」59.6%、「輸入業者」75.9%で、特に「輸入業者」に対する信頼度は極めて低い。

(図9 食品の安全性の保証についての信頼度)

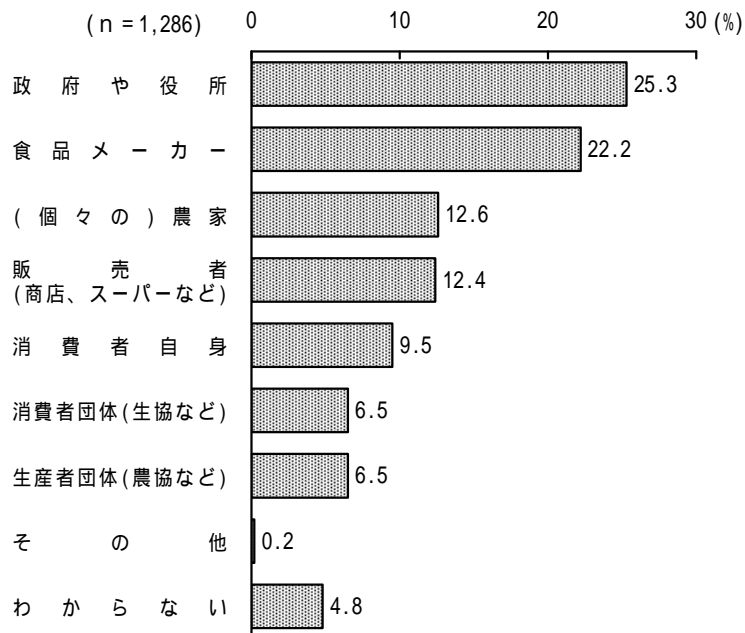


10. 食品の安全性確保のために期待する主体

- 「政府や役所」「食品メーカー」に期待感 -

食品の安全性を守っていくために、誰が一番期待するかをたずねたところ、「政府や役所」25.3%、「食品メーカー」22.2%が2割以上で、群を抜いて多くあげられている。以下は、「(個々の)農家」12.6%、「販売者(商店、スーパーなど)」12.4%、「消費者自身」9.5%などと続く。

(図10 食品の安全性確保のために期待する主体)



(調査の設計・方法など)

- (1) 調査地域 全国
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 4,000
- (4) 抽出方法 層化三段無作為抽出法
- (5) 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- (6) 調査時期 2007年8月3日～12日
- (7) 有効回収数 1,286

(問い合わせ先) 〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-12

社団法人 中央調査社 (担当 川島)

TEL 03-3549-3121 FAX 03-3549-3126

ホームページ : <http://www.crs.or.jp>